つかさ会　会報

2024.9 月

会員の皆さん、こんにちは。10 月になりましたが、スタート早々、最高気温 30℃以上の真夏日が続出し、暑さのぶり返しがみられます。私は暑いのが苦手なため、秋が深まってくれることを願うばかりです。

さて、今年度もつかさ会 秋の講演会を開催いたします。11 月 4 日(月・祝)に岐阜大学医学部 記念会館で行います。受付締切は、10 月 25 日(金)です。今回もお弁当をご用意しております。体を動かしながら楽しく学べる講演会を企画しておりますので、皆様奮ってご参加ください。

今月は、岐阜大学医学部附属病院 管理栄養士の岩松 大樹 先生に、『さかえ』の読みどころを紹介していただきます。

つかさ会のみなさん、こんにちは。岐阜大学医学部附属病院で管理栄養士をしております、岩松と申します。日が暮れるのが徐々に早くなり、暑い中にも秋を感じられるようになってきましたが、みなさんはいかがお過ごしでしょうか。

さて、今月号の『さかえ』では災害をテーマに特集が組まれています。日本では地震や台風、火山の噴火など様々な災害が起こります。特集１「今こそ、大災害に備えよう！」（P.5）では、糖尿病を持つ方々が災害時にどのように対応したら良いか、３職種の立場から記載がされています。管理栄養士からは災害発生時の食事や備蓄食品について、看護師からは避難所生活で心がけることや日頃からの備えについて、医師からは薬剤の注意点などについて紹介されています。災害発生時は普段と違う状況になるため、大切な知識だと思います。この特集を読んで、みなさんも日頃からの準備をしておきましょう。

また、特集２「能登半島地震リポート」（P.33）では 2024 年１月１日に発生した能登半島地震後に被災地支援で、実際に糖尿病を持つ方々への支援に携わった３名の医療従事者のリポートが掲載されています。それぞれ違う医療支援チームとして活動をしていますが、現地の医療機関や医療従事者と連携を取りながら支援をしていたことが伺えます。また、発生直後の超急性期は後方支援が主ですが、その後は被災者の方への直接支援を行い、急性期、亜急性期、慢性期と時間が経つにつれて支援する内容も変わっていきます。内服薬やインスリンの情報を分かりやすくパンフレットにして配布するなどの工夫をされており、とても勉強になります。

能登半島地震発生時に私は実家のある静岡県に帰省していましたが、けっこうな揺れを体感しました（震度３だったようです）。岐阜県ではもっと強い揺れを感じたことと思います。岐阜県で大規模災害が発生したとき、病院内ではどのように動けば良いのかをしっかりと把握しておかなければならないと改めて思いました。当院栄養管理室では能登半島地震後に備蓄食品の確認をし、ライフラインが断たれた場合に食事をどうやって出すかを少しずつ見直しているところです。いつ来るか分からない災害ですが、備えあれば憂いなしです！会員の皆さんも今回の特集を機に災害発生時の備えなどを見直すきっかけになればと思います。